

# 介護の魅力

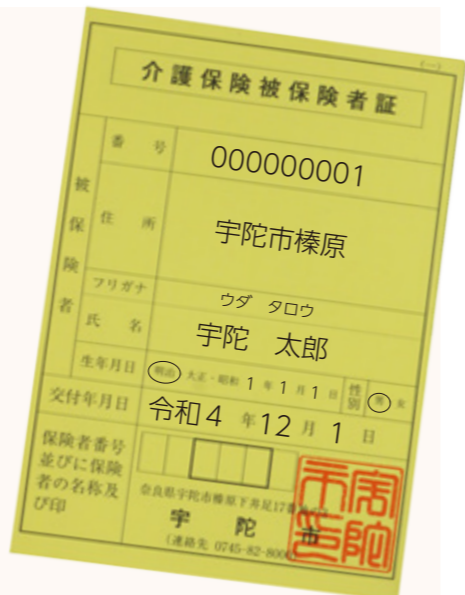
少子高齢化が進む日本。日本にとって介護の仕事はなくてはならないものです。今回は、介護の現場で従事する方に、介護職のやりがいやその魅力についてお話をうかがいました。

## ところで介護保険って??

高齢者の介護サービスや介護支援を保障するために、平成12年に作られた社会保険制度のことです。適切な介護サービスを受け、自立して生活ができるように支援することを目的としています。

運営は市区町村が行い、介護が必要となった際に、要介護認定を受けられることができれば、サービスにかかる費用を低く抑え利用できます。

制度は、いつまでも住み慣れた宇陀市で安心して暮らすために、介護を受ける方や介護に携わる方を社会全体で支える仕組みとなっています。少子高齢化が進む日本において重要な社会保障のひとつです。



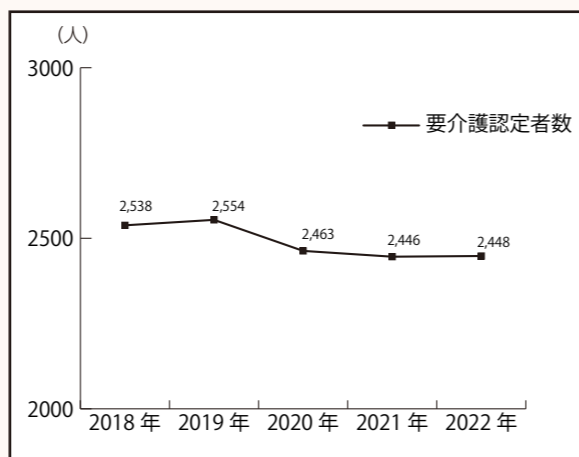
### 要介護認定について

被保険者が日常生活に支援が必要な状態になったとき、介護サービスを利用するためには要介護認定の申請が必要です。（※要介護認定の申請は65歳以上から可能です。40歳～64歳の方も特定疾病が原因で支援や介護が必要となった方は申請が可能です）介護福祉課もしくは各地域事務所で要介護認定の申請が可能です。申請後、調査員の調査や主治医からの意見書をもとに桜井宇陀広域連合で審査会が行われ、介護の必要性やその程度を総合的に判断し、判定が行われます。

要介護認定は、非該当を含む合計8段階で分類されます。

非該当	要支援		要介護				
	1	2	1	2	3	4	5
	軽 ←-----→ 重						

### 市の要介護認定者数の推移



問 介護福祉課 (☎ 82・3675/IP ☎ 88・9088)

## 介護と医療の総合窓口

宇陀市医療介護あんしんセンター（地域包括支援センター）は、高齢者が、住み慣れた地域で尊厳ある生活を続けることができるよう、要介護状態になっても必要なサービスが提供できる体制を支えるための中核機関です。

高齢者や家族の相談に応じて、適切なサービス等につなげ、その後のサポートを行っています。

在宅医療、介護、介護予防や健康づくり、認知症について、地域の高齢者のことで心配していることなど、気軽にご相談ください。



▲医療介護あんしんセンター 植松・井川

問 医療介護あんしんセンター (☎ 85・2500/IP ☎ 88・9480)



問 さんとぴあ榛原 (☎ 85・2525/IP ☎ 88・9065)

利用者の食事介助を行うさんとぴあ榛原 高谷さん



▲さんとぴあ榛原 高谷さん

日々の仕事の中で、ご利用者やご家族から「ありがとう」と声をかけていただくときがあります。そのような瞬間、何気ないケアにやりがいを感じ、自分がこの仕事を選んだことを誇りに思います。

これからもご利用者の生活のお手伝いができるよう、笑顔を心がけ、相手に寄り添う努力をしていきたいと思っています。



▲おやつ作りレクリエーションで指先を使うリハビリ

「おやちいちゃん」「おーい」「ゆっくり食べましようね」と職員とご利用者の微笑ましい会話や聞こえてくる「介護老人保健施設さんとぴあ榛原」の一面。施設内で勤務する職員は、工夫を凝らし、利用者の自立に向けてサービスの提供を行っている。利用者には介護保険のサービスの一環として、当施設で入所やリハビリを行い、在宅に復帰することを目指しています。



▲デイサービスの様子



**こども・福祉科（介護福祉系列）**  
 今回の授業は、福祉用具・自助具について。グループに分かれて、自分たちが普段何気なく行っている生活行為について見直し、生活のしづらさを感じるタイミングについて考えました。  
 最後にはそれぞれオリジナルの福祉用具を考え、皆で意見を出し合いました。



**未来のケアワーカー**  
 県内で唯一、高校で介護福祉士を養成している榛生昇陽高校・宇陀高校。昨年4月からは、介護福祉士などの資格取得を目指す専攻科 介護福祉科が設置されました。専攻科には海外から来られた方も在学されています。介護施設での実習や実技の授業を通じて、福祉について日々学ばれています。  
 そんな未来の介護現場で活躍が期待される学生たちについて紹介します。

**専攻科 介護福祉科**  
 先生の指導を受けながら、ベッドメイキングの実技授業を受ける専攻科の皆さん。ベッドメイキングを行う際のポイントを熱心に聞き、実際に自分たちでも挑戦されていました。一つひとつの動作の中にポイントがありますが、2人1組で協力し、スムーズに行えました。

# 介護の現場で活躍する方にインタビュー



居宅介護支援事業所 やまびこ  
 介護支援専門員 辻本さん

介護支援専門員（ケアマネジャー）として、利用者さんと家族さんから生活で困ったことや相談を受けて、介護サービス事業所と調整を行う業務をしています。  
 利用者さんのことを皆で考えてあげられ、自分の考えた介護サービスの計画が生活の支えや自立、改善につながると、とても嬉しく、やりがいを感じます。「あなたに頼んでよかった」「あなたに任せてよかった」その言葉を利用者さんから聞くことができ、この仕事を選んでよかったと思います。  
 私は約22年介護の仕事をしていますが、大変だったこともありますが、今思い返せば、楽しく、やりがいがある経験ばかりだと思います。皆さんも介護のお仕事に挑戦してみませんか。



特別養護老人ホーム ゆあほうむ椋原  
 介護福祉士 久保さん・米田さん

利用者さんの食事やトイレ介助、生活するうえで必要な行為全般の介護を行っています。実際に業務に携わる前まで、介護や福祉の仕事については全く知りませんでした。  
**久保さん**：介護の仕事をするうえで大事なことは相手のことを考えることです。対人の仕事ですので、仕事だけでなく、プライベートでも家族や友人に対して、今まで以上に思いやる気持ちを持てるようになりました。  
 福祉の仕事はICTの活用などで、発達してきています。介護ロボットを使い、介護者の身体への負担を軽減することもでき、「きつい」や「しんどい」のイメージは払拭されつつあります。  
**米田さん**：色々な働き方ができるのが、介護の仕事の良い所だと思います。その方に合わせた働き方ができるので、得意な仕事内容を伸ばしていけ、苦手な仕事もチームで協力して乗り越えることができます。多くの方と関わることができ、色々な考え方を学べ、人として成長できる仕事です。介護の仕事は大変な仕事というイメージが多いと思いますが、実際は笑い声が聞こえ、和気あいあいとした仕事です。



特別養護老人ホーム 室生園  
 EPA 介護福祉士候補者 フィンさん  
 (ベトナム出身)

利用者さんからの励ましや声掛けが毎日励みになります。3年前から日本に来て、主に食事や入浴、排泄などの介助を行っています。大変なこともあります。それ以上に、楽しいことも多いのが介護の仕事だと思います。利用者さんの日常生活の支援ができて嬉しいです。  
 実は、ベトナムでは「介護」という仕事がなく、家族が介護をすることがほとんどで、日本のような介護サービスを提供することがありません。  
 将来は、日本で学んだ介護の知識や経験を母国に持ち帰り、介護について広めていきたいです！今は、日本で介護福祉士の資格を取得するために猛勉強中です！



特別養護老人ホーム 悠楽園  
 介護福祉士 北森さん

特養（特別養護老人ホーム）で利用者さんの食事や入浴介助を行っています。  
 特養では、認知症がある方が多く入所されていますが、そんな中でも、毎日ケアを提供していると、利用者さんが顔を覚えてくれて、「いつもありがとう」と優しい声かけをしてくれることが励みになり、嬉しいです。  
 介護の仕事は、責任感のある仕事で誰かがやらないといけない仕事であると考えています。大変なこともありますが、利用者さんの笑顔を見るために、皆で連携して業務を行えるのが良い所と思います。  
 誰でも、挑戦できる仕事ですので、介護の仕事に挑戦をしてみようと考えている方は、一歩踏み出してみませんか。



大宇陀特別養護老人ホーム ラガール  
 訪問介護員 宮田さん

訪問介護員として、普段は食事調理・介助、掃除や入浴介助などを行っています。  
 訪問介護のサービスは時間が限られていますが、その限られた時間の中でも、利用者さんの生活の一部を支援することができ、また、喜んでもらえるときにやりがいを感じています。1対1の対人援助の仕事なので、自分とのコミュニケーションや介護のケアによって利用者さんを笑顔にするため、日々努力しています。  
 私も昔は調理などの経験はあまりなく、少し困ることもありましたが、今では自分でその人の体調や栄養バランスを考えて食事を作れるようになりました。利用者さんと接するのはとても楽しいですよ。皆さんも生活や自立につながる仕事をやってみませんか。

## 感謝し、感謝される仕事

両親が福祉に関する仕事に従事していて、日頃より仕事の話や聞き、福祉のことを学びたいと思うようになりました。最初は、中学校では習わないような内容の授業や聞き慣れない単語が多く、戸惑いもありましたが、すぐに慣れました。

介護施設に実習に行くこともでき、現場でしか学べることができないようなことやペアになった友人と

介護の楽しさ  
 体験してみませんか？



▲榛生昇陽高校 こども・福祉科  
 久保 桃花さん

介護について、考えることが多く、勉強になりました。

介護は学ぶ前と学んだ後では、印象が大きく異なります。大変なイメージが多いですが、実際は、利用者様から感謝され、ケアを行う側からも感謝できる非常にやりがいのある仕事です！

## 日本で介護の仕事がしたい！

大学生から日本語の勉強をしていて、母国で日本の介護の仕事を紹介され、楽しそうに興味を持ちました。

宇陀高校で介護の勉強を始めて、外国語で勉強することの難しさを感じていますが、日本語でコミュニケーションを取りながら、介護のことを学ぶのはとても楽しいです。介護が必要な方は、一人ひとり必要なケアの種類も異なってくるので、毎日が勉強です。

介護施設に実習にも行きました。学校で勉強して、学んだこと以外にも実際の現場で学べることもあり、日頃の勉強の理解も進み、利用者様とお話もでき、毎日が充実しています。介護の仕事を経験して、介護の仕事をした気持ちがいよいよ強くなりました。将来は日本で、介護の仕事をして働きたいです！

私たちと一緒に専攻科で  
 勉強しませんか？



▲宇陀高校 専攻科 介護福祉科  
 プアンマライさん (タイ出身)